

コロナ禍から
いのちと
くらしを守る

- PCR検査の拡充、医療機関の減収補てんを。
- 密にならずゆきとどいた教育へ少人数学級の推進を。
- 国保料引き下げ、介護保険の負担軽減を。
- 子どもの通院医療費中学卒業まで無料、給食費無料に。
- 島根原発の再稼働ストップ、消費税5%へ緊急減税を。



子どもたちと教育を守って38年、教師

日本共産党

2021年市議選

舟木けんじ

舟木けんじ(健治)略歴 ●1960年松江市生まれ。乃木小、松江三中、松江南校、島根大学教育学部卒。●小学校教員を経て、島根県教職員組合委員長、しまね労連議長など歴任。●東津田町在住。家族/妻、長男夫婦・孫2人(「けんじいさん」と呼ばれる)、猫3匹と同居。●趣味・読書(重松清、井上ひさし、浅田次郎のファン)、音楽・映画鑑賞。

舟木けんじ History



特養ホームで父と

家計苦しく、働きづめの父

私は松江市に生まれました。父は現場に泊まりこんで働く土木関係労働者。仕事先がづぶれることもあり、「お金がない」と心配する母の姿がありました。

子どもの頃は、病気がちで内気な子でした。夜中に熱が出る、母が私をおぶり、近所の病院に駆け込み、お医者さんをたたきおこしてくれたこともありました。

学級委員、生徒会

自信がつきはじめて

小学3年の担任に長所を引き出してもらい、友だちが増えて、自信がつくようになりました。

小学5年の担任には、予習を通じて自分で学ぶ楽しさを教わり、学級委員もつとめました。

身体を強くしたいと、剣道を小学4年からはじめ、高校まで続けました。

中学校では生徒会の新聞部長となり、生徒会新聞の編集に携

わりました。この経験が、教師としての学級だよりや労組新聞づくりにいかされています。

大学に入り、世の中が見えはじめて

家計が苦しく、県外の大学をあきらめ、島根大学に入学しました。子ども向けの人形劇や紙芝居に取り組むサークルに入り、人形劇に子どもたちが反応し、その笑顔に喜びを感じました。

サークルを通じて、民青同盟に加盟。貧困は自己責任ではなく、大企業やお金持ち優先の政治や政策が関わっていることを学びました。政治を変える一員になると、日本共産党に入党しました。

「どの子にも教育の光を」教師、労組でがんばる

大学卒業後、小学校教諭に。どの子にも教育の光があたるようにと願って、学級づくりや授業づくりに努力してきました。

父の介護、長女の不登校妻と二人三脚で

結婚をして、長男が生まれ、宮参りを一緒にした1ヶ月後、父が脳こうそくとなり、工事現場で倒れました。左半身まひとなり、妻と二人三脚で20年余、在宅介護を経験。その後、特養ホームにお世話になりました。

小学生の長女が不登校に。何とか学校に行ってほしいと、無理やり車に乗せようとしたこともありました。

やがて、一番つらいのは長女自身だという事に気づき、親子で話し合い不登校を選択。長女はゆっくりと元気を回復し、力を蓄え自分の道を歩んでいきました。「信じて任せて・待つ」ことの大切さを子どもに教えられました。

市政ですぐ働ける 舟木けんじ4つの力



1 「お金の心配なく学べる社会」こそ私の教師としての原点

子どもたちの貧困なくす

私は、小学校教諭の初任のころ、「〇〇ちゃんが給食を食べたくないと言ってるよ」と聞いたので、わけを聞こうと近づくと、その子は教室を飛び出しました。

追いかけて聞くと、「お家の人がお金がなくて大変と話していた。自分が給食を食べなければお金

をかけなくてすむ」と泣きながら話してくれました。

「お金の心配なく学べる社会」こそ、私の教師としての原点です。

コロナ禍のなか、「貧困から子どもたちを守る。給食費は無料に」——この思いで、私は市政に挑みます。

2 県教組委員長、しまね労連議長 働くもののくらしを守る

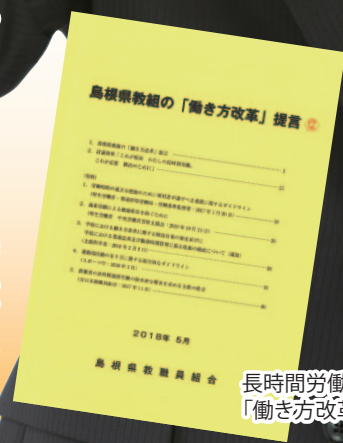
働きづめの父が、工事現場で脳こうそくで倒れ、会社を退職。就業規則の退職金は1円もせず、働くものを使い捨てにする理不尽さに、怒りがこみあげました。

働くものの生活と権利を守るこそ、私のライフワークです。

私は、教職員の長時間労働な

ど多忙化解消を求め、県や市町村教育委員会と交渉。教職員の勤務実態を調査させ、「勤務時間の適正化」通知を出させました。

署名運動に取り組むなか、県は小中学校の少人数学級を実施しました。教員増やし、ゆきとどいた教育へ、私は全力をあげます。



長時間労働の是正など「働き方改革」を提言

3 パワハラで自死、「公務災害」認めさせる力に しっかり発言、誤りをただす

ある自治体職員が上司からパワハラを受けて自死。遺族が「公務災害」を求めた審査会で、私は労働者側の代表として意見陳述しました。

「市の合併後、急激に時間外労働が増大し、うつ病を発症」と指摘。

職員が職場復帰しても、「職場放棄」や「更迭」などといじめられ、私は「加療中の者に、異常で冷酷な仕打ち」と断罪しました。

上司のパワハラが原因と認められ、「公務災害」となりました。

4 憲法9条改悪反対の一点で共同 野党共闘を広げる力に

労働組合で沖縄平和ツアーに参加したとき、沖縄戦でひめゆり学徒だった人の話を聞きました。

砲弾を受けた女学生が「天皇陛下万歳」と言って亡くなった話に、教育の恐ろしさを実感し、憲法9条は絶対に守らねばと思いました。

私は、2004年から「メイクピースの集い」の開催に力をつくして、9条改悪反対の一点で、共同を広げられました。

戦争法反対から広がった野党共闘。その力を広げて、憲法9条を守るために全力をあげます。